

櫛

一種楸大葉如桐葉而黑，山中人謂之櫛楸，即郭所謂虎梓。

○按ズルニ、禰須三毛知乃木ハ女貞ナラン、宜シク女貞條ヲ參看スベシ、

〔倭名類聚抄二十〕櫛 說文云、櫛音億、日本紀私記云、阿波木、今梓之屬也。

〔箋注倭名類聚抄十〕按、爾雅不載、櫛有注字爲是、郭注爾雅、扭、櫛一名土櫛、按、西山經、英山多扭、櫛、郭

注云々、又爲以、扭、櫛不同、與此所言異、所引蓋舊注、抑源君所見、郭注脫土字、又按一名土櫛者、訓、扭

之、櫛、非、梓、屬之、櫛、略、原書木部云、櫛、純也、按、爾雅云、扭、櫛、則純當作扭、蓋篆書形似而訛也、原書又

云、櫛、樟、屬、大者可爲、棺、榔、小者可爲、弓、材、二字不同、此當作、櫛、而、櫛、音、隸、作、慧、苒、澆、作、櫛、億、意、並、作、億、

故、櫛、亦、作、櫛、遂、與、扭、櫛、字、混、無、別、又、考、工、記、云、弓、人、爲、弓、凡、取、幹、之、道、柘、爲、上、櫛、次、之、據、說、文、當、是、櫛

字、然、鄭、注、引、爾、雅、曰、扭、櫛、毛、詩、正、義、引、陸、璣、疏、云、扭、或、謂、之、櫛、材、可、爲、弓、弩、幹、也、則、以、扭、櫛、梓、屬、櫛、爲

一段、玉、裁、曰、扭、櫛、即、說、文、櫛、字、經、典、皆、作、櫛、說、文、別、有、櫛、字、者、蓋、淺、人、謂、不、可、闕、櫛、字、而、增、之、非、許、氏

之原文、

〔和漢三才圖會八十三〕櫛音益 萬年樹 和名阿波木

說文云、櫛、梓、之、屬、二、月、花、白、子、似、杏、葉、亦、似、杏、而、尖、白、色、皮、正、赤、其、理、多、曲、少、直、材、可、爲、弓、弩、幹、

〔古事記上〕伊邪那岐大神詔、略、故吾者爲御身之禊而、到坐竺紫日向之橋小門之阿波岐、此三字原

而禊祓也、

〔古事記傳〕阿波岐原阿波岐を濁るべし、清はわるし、書紀に櫛原とかきて、櫛此云阿波岐とあり、和

名抄に、說文云、櫛、梓、之、屬、也、日本紀私記云、阿波木、今按、又、櫛、木、一、名、也、見、爾、雅、注、と、あ、れ、ば、此、樹、は

今世に阿乎木と云物にはあらず、なほよく尋ぬべし、續古今集なるト部兼直が歌に、あなきは

とぞある、さて是も地名にはあらず、松原檜原柳原柞原などの類にて、たゞ此木の多く生たる

地を云るなるべし、